

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①対話的な学習を重視し、主体的に自分の思いを表現し、互いの考えを認め合い、自分の考えを深められるようにする。②課題解決型学習や体験学習、出前授業など好奇心を引き出し、粘り強く取り組めるようにする。③スキルタイムの活用やUDの視点での取組を通して基礎・基本の定着を図る。	①重点研究会での授業研究を通して指導の工夫・改善を図り、その成果が表れてきている。②地域や外部の方を講師に招き、体験的な学習を通して児童の興味・関心や道徳力を高めることができた。③スキルタイムの活用や視覚的な工夫も大変有効であった。	B
豊かな心	①ベア学年やたてわり学年の活動を年間通して行う。②児童委員会や学校保健委員会を通して児童が主体となって課題に取り組んでいけるようにする。③道徳教育や人権教育を充実させ、自分・他者理解や思いやりの心を育む。③幼保小連携を1、5年で、中学校交流を6年生で行う。	①④ベア学年・たてわり交流、幼・中との異校種交流、地域の方や外部講師による授業など様々な人とのかかわりを通して豊かな学びができた。②委員会活動を軸に児童の主体的な取組がみられた。③道徳の授業の充実や人権週間での取組など意識の向上に繋がった。	A
健やかな体	①大きなけが、病気の予防に向けて安全・保健指導に取り組む。②一校一実践運動を通して、年間通じて体力の向上を図る。③養護教諭、調理員、栄養職員と連携して食育に関する授業を行う。④学校保健委員会を軸に心の健康について取り組んでいく。	①授業での安全指導や手洗い・うがい、換気、マスク着用など衛生指導を徹底し、効果を上げた②長縄跳びやドッジボール大会など体育や集会で運動への関心を高めた。③食育の授業研究を行うなど連携して成果を上げた。④学校保健委員会を軸に各学級で取り組んだ。	B
安全管理	①年間を通して危険回避の避難訓練・安全指導を行う。②全職員が安全意識をもって見守り・指導を行い、事故の未然防止に努める。③施設面では、定期点検を確実にし、改善箇所については迅速に対応する。④高リスクの文書、データの管理・取扱い方を徹底する。	①地震・火災・不審者対応の避難訓練・安全指導を年9回実施し、安全意識を高めた。②校内の大きなけがも減少した。今年度も警察署による不審者対応の職員研修を行い、手立てを学んだ。③外壁工事を安全に留意して行った。④個人情報の取扱いを適切に行った。	A
児童指導	①「学校のきまり」を全教職員で共通理解して指導に当たる。②児童指導は、学年・児童支援専任など複数体制で迅速に事実確認を行い、保護者との連携を密に行う。③毎月の職員会議の中で児童理解の情報共有を行う。④児童が相談しやすいよう声掛けをしたり、複数の窓口を周知したりする。	①年度初めに職員で共有し、適宜、確認し合った。②学年・専任を軸とした複数での対応を原則化し、管理職とも共有して早期対応に努めた。③④職員会議等で児童理解に向けて情報交換を毎回行い、職員全体で見守る意識を高めた。研修会も有効であった。	B
地域連携 学校運営協議会	①学校運営協議会は年間4回の開催とし、日常の教育活動について積極的に委員にかかわっていただくようにする。②サポーター協議会においては、学校・地域コーディネーターとの連携を強めていく。③PTA組織におけるサークル等、特色ある取組を活用し、児童の学習の充実を図る。	①年4回実施し、教育活動の参観・報告、情報交換などを通して学校経営の理解と助言をいただいた。②サポーター協議会では、児童の下校時の見守りに尽力いただき、安全が確保された。③PTA、地域ボランティアなど連携に努め、大きな成果があった。	A
教育環境整備	①日常的な清掃活動をしっかりと行う。②図書館の環境整備と効果的な運用を一層図る。③図画工作等作品展示を工夫し、変化のある環境を創造する。④ICTの活用推進に向け、タブレットやパソコン、デジタルカメラなど機器の整備と活用を図る。⑤UDの視点で教室環境を整える。	①清掃指導を各学年でしっかりと行い、成果を上げた。②新書購入や本の紹介、読み聞かせ、授業の調べ活動など有効に活用できた。③作品掲示など有効活用した。④機器の増設やICT支援員による研修会を行った。⑤UDを意識して掲示物や視覚化を配慮した。	A
いじめへの対応	①YPアセスメントシートによる児童の人間関係分析を年2回行う。②横浜プログラムを年4回実施し、集団の育成に役立てる。③いじめに対する教職員の理解を深める研修会を行い、情報を共有する。④案件等発生した際にはいじめ防止対策委員会で早急に対応する。	①②年2回実施し、分析をもとに実態に応じた横浜プログラム他、必要な支援を行った。③④いじめについての定義や早期発見、組織的対応について理解を深め、早期対応に向けて事実確認・情報共有・対応協議を行い、保護者との連携に努めた。	B
人材育成・組織運営 (働き方改革)	①ミドルリーダーが中心となって月1回の職員研修を行う。②週1回の教務会において、学校経営改善の視点でも話し合えるように、各自が課題意識をもって臨む。③組織の在り方を検討し、改編するなど小規模校としての組織運営について検討、改善する。④各研究会等で得た情報を共有していく。⑤業務の効率化を図り、児童に	①校内メンター研修会(若手育成)を毎月行った。ステージ別の外部研修会では、他校の教員とも交流して視野を広げた。②教務部が軸となり、指導部・研究部、各種部会など組織的に学校経営を推進した。③⑤各部会で改善案を出し合い、来年度に向けての協議ができた。④新教育課程の情報などを共有した。	B
ブロック内 評価後の 気づき	ブロックの育てる子どもも像では、「つながりの中での あいさつ、認め合い・励まし合い・高め合い、課題解決」する子どもの育成を目指しているが、本校も人との豊かなかかわりの中で学んでいく教育活動を重点的にし、成果を上げている。また、都筑小学校で行ったブロックの授業研究会協議では、各校の特色をつないで児童生徒のコミュニケーション力を高める教育の工夫・改善を検討したが、本校では重点研究を中心に推進することができた。また、中学校の部活動体験・授業参観は、児童・生徒の交流を深めるとともに中学校への安心感にもつながった。		
学校関係者 評価	4月当初から、欠員(配当されるべき正規・臨時任用教員が配当されない)で学級外が児童支援専任しかいない状況だった。また、教員の病欠休暇に関しても代替非常勤講師(29時間)が配置されず、学校が探さなければならない状況が続いた。いずれも子どもの教育に直接かかわってくることで、市教育委員会には、早急には正してほしい。児童アンケートで、「学校へ行くのが楽しい、行事など力を合わせて活動している。ボランティア、地域の方などいろいろいるなと勉強するのが楽しい」と感じている児童が多かったのは、とてもよいことである。今後も大切にしていきたい。		
中期取組 振り返り	年間教育活動計画を教職員のチームワークと保護者・地域の協力で効果的に実行することができた。今年度は、年度当初から教員の欠員があり、ボランティアの力が大きかった。異学年、異校種、保護者、地域、外部講師など様々な人との交流を通して、学びを深め、豊かな心の育成にもつなげることができた。委員会活動を軸に児童の主体的な取組もみられた。また、安全管理では、熱中症・台風・新種ウイルスなど様々な脅威が増えており、引き続き適切な対応に努めたい。また、来年度は、新学習指導要領の確実な実施やいじめ対応も含め、児童指導や関係機関との連携の強化に努めたい。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①自分の考えをもつ場を大切に、主体的に自分の思いを表現し、互いの考えを認め合い、自分の考えを深められるようにする。②課題解決型学習を通して、主体的に課題を追究し、思考・判断力を高めることができるようにする。③スキルタイムの活用やUDの視点での取組を継続・定着させる。		
豊かな心	①ベア学年を中心に精選して交流活動を行う。②児童委員会や学校保健委員会を通して児童が主体となって課題に取り組んでいけるようにする。③道徳教育や人権教育を充実させ、自分・他者理解や思いやりの心を育む。③幼保小連携を1、5年で、中学校交流を6年生で行う。		
健やかな体	①大きなけが、病気の予防に向けて安全・保健指導に取り組む。②一校一実践運動を通して、年間通じて体力の向上を図る。③養護教諭、調理員、栄養職員と連携して食育に関する授業を行う。④学校保健委員会を軸に心の健康についてさらに取り組んでいく。		
安全管理	①年間を通して危険回避の避難訓練・安全指導を行う。②全職員が安全意識をもって見守り・指導を行い、事故の未然防止に努める。③施設面では、定期点検を確実にし、改善箇所については迅速に対応する。体育館床張替を予定。④高リスクの文書、データの管理・取扱い方を徹底する。		
児童指導	①「学校のきまり」を全教職員で共通理解して指導に当たる。②児童指導は、学年・児童支援専任など複数体制で迅速に事実確認を行い、保護者との連携を密に行う。③毎月の職員会議の中で児童理解の情報共有を行う。④児童が相談しやすいよう声掛けをする。複数の窓口を周知する。		
地域連携 学校運営協議会	①学校運営協議会は年間4回の開催とし、日常の教育活動について積極的に委員にかかわっていただくようにする。②サポーター協議会においては、学校・地域コーディネーターとの連携を強めていく。③PTA組織におけるサークル等、特色ある取組を活用し、児童の学習の充実を図る。		
教育環境整備	①日常的な清掃活動をしっかりと行う。②図書館の環境整備と効果的な運用を一層図る。③校内掲示を工夫し、学びを深める環境を創造する。④ICTの活用推進を図る。プログラミング教育に向けた環境整備や研修を行う。⑤UDの視点で教室環境を整える。		
	b8		
いじめへの対応	①YPアセスメントシートによる児童の人間関係分析を年2回行う。②再開スタートプログラムを含め、横浜プログラムを実施し、よりよい集団づくりに役立てる。③いじめに対する教職員の理解を深める研修会を行い、情報を共有する。④案件等発生した際にはいじめ防止対策委員会で早急に対応する。		
人材育成・組織運営 (働き方改革)	①若手リーダーが中心となって月1回の研修を行う。②毎週教務会を行い、次週の確認及び学校経営改善の視点で課題を検討する。③小規模校としての組織運営について業務内容などを検討、改善する。④各研究会等で得た情報を共有していく。(特に新教育課程)⑤業務の効率化を図り、児童に向き合う時間と余裕を確保する。		
ブロック内 評価後の 気づき	ブロックの育てる子どもも像では、「つながりの中での あいさつ、認め合い・励まし合い・高め合い、課題解決」する子どもの育成を目指しているが、本校も人との豊かなかかわりの中で学んでいく教育活動を重点的にし、成果を上げている。また、都筑小学校で行ったブロックの授業研究会協議では、各校の特色をつないで児童生徒のコミュニケーション力を高める教育の工夫・改善を検討したが、本校では重点研究を中心に推進することができた。また、中学校の部活動体験・授業参観は、児童・生徒の交流を深めるとともに中学校への安心感にもつながった。		
学校関係者 評価	4月当初から、欠員(配当されるべき正規・臨時任用教員が配当されない)で学級外が児童支援専任しかいない状況だった。また、教員の病欠休暇に関しても代替非常勤講師(29時間)が配置されず、学校が探さなければならない状況が続いた。いずれも子どもの教育に直接かかわってくることで、市教育委員会には、早急には正してほしい。児童アンケートで、「学校へ行くのが楽しい、行事など力を合わせて活動している。ボランティア、地域の方などいろいろいるなと勉強するのが楽しい」と感じている児童が多かったのは、とてもよいことである。今後も大切にしていきたい。		
中期取組 振り返り	年間教育活動計画を教職員のチームワークと保護者・地域の協力で効果的に実行することができた。今年度は、年度当初から教員の欠員があり、ボランティアの力が大きかった。異学年、異校種、保護者、地域、外部講師など様々な人との交流を通して、学びを深め、豊かな心の育成にもつなげることができた。委員会活動を軸に児童の主体的な取組もみられた。また、安全管理では、熱中症・台風・新種ウイルスなど様々な脅威が増えており、引き続き適切な対応に努めたい。また、来年度は、新学習指導要領の確実な実施やいじめ対応も含め、児童指導や関係機関との連携の強化に努めたい。		

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
安全管理	c4		
児童指導	c5		
地域連携 学校運営協議会	c6		
教育環境整備	c7		
	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営 (働き方改革)	c10		
ブロック内 評価後の 気づき	ブロックの育てる子どもも像では、「つながりの中での あいさつ、認め合い・励まし合い・高め合い、課題解決」する子どもの育成を目指しているが、本校も人との豊かなかかわりの中で学んでいく教育活動を重点的にし、成果を上げている。また、都筑小学校で行ったブロックの授業研究会協議では、各校の特色をつないで児童生徒のコミュニケーション力を高める教育の工夫・改善を検討したが、本校では重点研究を中心に推進することができた。また、中学校の部活動体験・授業参観は、児童・生徒の交流を深めるとともに中学校への安心感にもつながった。		
学校関係者 評価	4月当初から、欠員(配当されるべき正規・臨時任用教員が配当されない)で学級外が児童支援専任しかいない状況だった。また、教員の病欠休暇に関しても代替非常勤講師(29時間)が配置されず、学校が探さなければならない状況が続いた。いずれも子どもの教育に直接かかわってくることで、市教育委員会には、早急には正してほしい。児童アンケートで、「学校へ行くのが楽しい、行事など力を合わせて活動している。ボランティア、地域の方などいろいろいるなと勉強するのが楽しい」と感じている児童が多かったのは、とてもよいことである。今後も大切にしていきたい。		
中期取組 振り返り	年間教育活動計画を教職員のチームワークと保護者・地域の協力で効果的に実行することができた。今年度は、年度当初から教員の欠員があり、ボランティアの力が大きかった。異学年、異校種、保護者、地域、外部講師など様々な人との交流を通して、学びを深め、豊かな心の育成にもつなげることができた。委員会活動を軸に児童の主体的な取組もみられた。また、安全管理では、熱中症・台風・新種ウイルスなど様々な脅威が増えており、引き続き適切な対応に努めたい。また、来年度は、新学習指導要領の確実な実施やいじめ対応も含め、児童指導や関係機関との連携の強化に努めたい。		